

えんちょう先生の わくわくだより

令和2. 1. 9 NO. 20



あけまして
おめでとう！



1/8 (水) 令和二年、3学期の始まりは、みんな揃って「あけましておめでとうございます」と大きな声であいさつから始まりました。今年十二支最初のねずみ年である事。ねずみは、すばしっこく頭がいい事、どうしてねずみが十二支の最初になったのか？のいわれなどを聞いたね。先生が読んでくれた「お正月」の紙芝居で、羽根つきは悪い事をふっとばすのだと知り、先生達が、羽子板で羽根つきをして見せました。こども達は羽根がカン！と音を立てて飛ぶ度に「悪いこと飛んでいけ！」と大きな声で叫んでいましたよ。

さあ、今年五輪イヤーでもあります。こども達は、日々の報道で、いろんな運動がある事を知っているでしょう。又、精いっぱい頑張っても叶わない事があったり、努力が報われたりする喜びの場面も目にする事が多くなると思います。園の運動会でも、負けるとすねて動かなくなってしまったり、負けるとわかった時点で列から離れていってしまう子もいましたが、こうした様々な選手のためゆめな努力や厳しさも知りながら心を動かす絶好のチャンスですね。今、教育は大きく変わろうとしています。人工知能が人間をこえる瞬間もそんなに遠くはないでしょう。グローバル化、IT化などと言われ、世の中は大きな変化を迎えています。小学校でもモデル校では、一人一台ずつのタブレットで、ロボットを動かすプログラミング教育が行われていると報じられています。さあ、そんな中、どう乳幼児期を過ごさせたいのでしょうか？幼児教育も「3法令」施行からまもなく二年。幼稚園も保育園もこども園も3つの施設すべてが幼児教育機関に位置づけられ3つの施設が目指す目標も同じになりました。岩村こども園は、「遊びや仕事でこどもを育てる！」事の大事さを目標に掲げ、今迄もこれからもこどもの非認知能力を伸ばせる様に取り組んでいきたいと思っています。



年少さんでも
こんな風に勘
考しながら遊
べるんだよ。



体操の後、皆で楽しみました



◆おもちゃつき
おもちゃがぶくつとぶくらんだ
おもちゃがびとつとくつした
ねばねばしちやうてはなれない
ねばねばねば
くつついた！

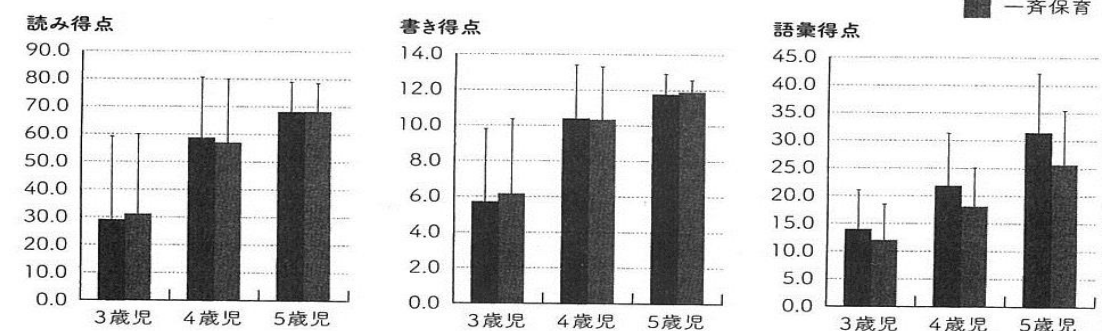


「あそび込む」ことは、非認知能力を育てるより 非認知能力につながる

大豆生田 啓友著

乳幼児期のあそびの重要性はいくつかの研究で明らかになっています。ある研究では、先取り準備教育を行う一斉保育型の園と、子どもの主体性を大事にする自由あそびが多い園の子どもの読み書きや語彙力の比較調査を行い、自由あそびが多い子のほうが、語彙得点が高いという結果を報告しています(図3)。子どもの主体性や多様な直接体験、興味・関心を尊重していることなどが、語彙力の伸びにつながっているのだろうと考えられます。ちなみに、語彙力はその後の学力の重要な基盤となる可能性が指摘されている重要なものです。

図3 保育形態による語彙力の差



内田伸子、浜野隆編『お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム 格差センシティブな人間発達科学の創成 2巻 世界の子育て格差—子どもの貧困は超えられるか』(金子書房、2012年)より



としき先生が恵峰の事務長さんから、木材を貰って来て各年次の一つ本箱を作ってくれたよ。廊下に置いて、図鑑などがすぐに手に取ってこどもに見られるようにしたいという先生達の思いに応じて・・・

須永 博士 小さな夢の詩集
絶望からの挑戦より